



OSAKA・II ZONTA CLUB

大阪Ⅱゾンタクラブ第59号(2025年3月)



Eメールアドレス: d26osaka2@zonta-d26.jp

ホームページ: <https://osaka2-zonta.com/>

巻頭言

会長 尼木 純子



昨年大阪Ⅱゾンタクラブは、創立30周年(3月24日)を迎え、坂本会長のもと30周年の記念式典を行い、台湾からは23名のご参加をいただき、同日、台中Ⅲとの姉妹クラブの締結も行いました。

本年は4月に第3回アジア地区間会議(AIDM)が日本(福岡)で催され、大阪では4月13日から6ヶ月間にわたり、日本国際博覧会が催されます。

新型コロナウイルス感染症も5類感染症となり、円安も手伝って海外からは大勢の観光客もいらっしやり、ようやく賑やかな日常が戻って参りました。



本年3月2日には「アルゼンチンタンゴのしらべ」と題してリーガロイヤルホテル桂の間でチャリティイベントを行い、恵まれない女性や子供たちのための寄付の資金を集めます。

令和7年が世界で勃発している戦争も終結し、災害の無い素晴らしい年となるよう心から願うと共に、世界の女性や子供達が幸せに過ごせますように、微力ではございますが活動させていただきます。

皆様、本年もまた大阪Ⅱゾンタクラブの活動にご協力をお願い申し上げます。

世界大会報告1

坂本 千代



2024年6月27日(木)から30日(日)にかけてオーストラリアのブリスベンで開催された国際ゾンタ第66回世界大会に大阪Ⅱから内藤会員と私が参加しました。私は6月26日にブリスベンに到着し、翌朝会場となるブリスベン会議・展示センターに行きました。そこで内藤さんと会って、受付とクレデンシャル登録をすませました。日本からの参加者は60数名です。

9時から10時半までさっそくワークショップがあり、私は「AIと女性の権利」というのに参加しました。そのあとは「Zonta Says NO」行進です。オレンジ色のものを身につけた人たちが、会場近くの公園から川沿いに30分ほど行進し、そのあとソーセージを焼いたものを食べました。午後は「防災準備はできているか?」というワークショップに参加しました。また、大阪Ⅱクラブから500USドルを国際ゾンタに寄付しました。1日目は本当にめまぐるしく、ぐったりしてホテル(私が宿泊したものは会場から徒歩25分くらい)にもどりしました。

28日(金)8:30からいよいよ世界大会本番となり、クイーンズランド州知事(女性)の祝辞、世界大会実行委員長の挨拶、フラッグパレードのあと、メイン講演者であるラビア・シディックという女性のお話がありました。彼女はムスリムの元英国軍将校、人権派の弁護士で、イラクでテロリストの人質になり、解放されたあと、自分の働きを認めず隠蔽しようとした英国軍を相手に訴訟を起こした人物です。その壮絶な経験談は聴衆全員に大きなショックを引き起こし、1時間ほどの講演はあっという間に終わったような気がしました。

28日からはビジネスセッションが続きました。この2年間の国際ゾンタの活動報告のあと、予算案やバイロース変更についての投票、そしてこれからの2年間の国際役員の選挙です。私は世界大会の投票に参加するのは初めてでした。投票はクレデンシャル登録の時に渡された小さな器具(首にかけるようになっている)のボタンを押して行ないました。役員選挙だけは、デリゲート(選挙人)あてに送られてくるEメールをその場で開いて、投票したい人の名前をマークして送信するというやり方だったので、メールがちゃんとこちらに届くまでドキドキしました。

29日(土)の昼過ぎに選挙結果の公式発表がありました。次期、つまり2026-2028年度の国際会長はイタリアのフェルナンダ・ガロ・フレスキさんです。3月の大阪Ⅱゾンタ30周年に来てくださった台湾のヴィヴィアン・シェンさんは7名の国際理事のひとりに選出されました。3月に台湾から来てくださった方々のうち、このヴィヴィアンさんと、31地区の新ガバナーに就任した鄭富糧さんのおふたりと再会できてご挨拶しました。台中Ⅲのメンバーには会えず残念でした。

30日(日)の午前中のビジネスセッションに出たあと、最後のセッションへの出席と投票を内藤さんに託して、私はブリスベンをたってシドニーに向かいました。多くの人々に会って、様々な情報交換ができた、とても有意義な世界大会でした。



世界大会報告2

内藤 恵子



6月24日から7月2日まで、Brisbane に行ってきました。現地は冬で、朝晩は肌寒い気候でした。27日に登録、28日開会式、フラッグパレードがあり、1300人が民族衣装で集い華やかな幕開けでした。サンセットクルーズでブリスベンの夜景を楽しみました。船はディスコで、1970年代の音楽がガンガン流れていました。30日は、朝、メモリアルサービスがあり、閉会式後、Farewell Party でした。ここでも会場の真ん中にダンスフロアがあり、ロックバンドが1970年代の音楽を演じて、1時間以上踊っていました。今回はディスコが斬新でした。



日本からの参加者たち



ウテ前国際会長と内藤会員



左から坂本会員、内藤会員、シェン国際理事

9月例会 歌舞伎よもやま話 ― 押し隈の展示と共に

幡山 玲子



9月例会(2024年9月12日)において、前AD西村寛子様から「歌舞伎よもやま話」と題した卓話を伺いました。

西村様は、お父様の故大鳥順一郎氏の片岡仁左衛門らの隈取を遷した押し隈を軸装した押し隈コレクションを、『隈取』の表題で出版されるなど、歌舞伎をはじめ日本の伝統文化を様々な角度から発信されておられ、この日も雨の中コレクションを数点お持ちいただきでご披露くださいました。

隈取とは初代市川團十郎が始めたといわれている歌舞伎の化粧法の一つで、地色を塗った顔に赤や黒、青などの鮮やかな色で線を描き、登場人物の性格を外見で示します。赤い紅隈は、正義や勇者を表し、青い藍隈は血も涙もない悪人を、茶色の茶隈は鬼や妖怪を表します。押し隈とは、このメーキャップを本舞台の後そのまま薄絹に遷したものです。

歌舞伎は、古代日本に大陸から入ってきた雑技である散楽が源流で、一つは能に、もう一つは歌舞伎へと発展していったものです。とくに江戸時代出雲のお国に代表される風流踊りが、出雲大社の勧進のために国中を回り、おくに踊りを広め、その影響を受けて同じころ女歌舞伎と若衆歌舞伎が誕生しました。しかし遊女たちの女歌舞伎や少年たちの若衆歌舞伎は、風紀を乱すという理由で江戸幕府から禁止令が出され、代わりに野郎歌舞伎が出てきて、女形も生まれ、現在につながる形式が確立されました。その歴史の中で荒事の演出と共に多くの隈取が生まれ、現在に至っています。

お話のあと、コレクションを壁にかけてご説明いただきました。押し隈を見ていると、そこに役者さんがいるようで、一種冷気のようなものを感じました。赤や青の筋隈の背後に生身の役者の顔が浮かんできます。役者さんの演じられた後の息づかいが込められているような押し隈コレクションでした。

最後になりましたが、西村様にはお忙しいところお時間を割いていただき、ご講演いただきましたこと心より感謝申し上げます。



西村寛子氏

神戸須磨シーワールド (11月10日)

内田 智子

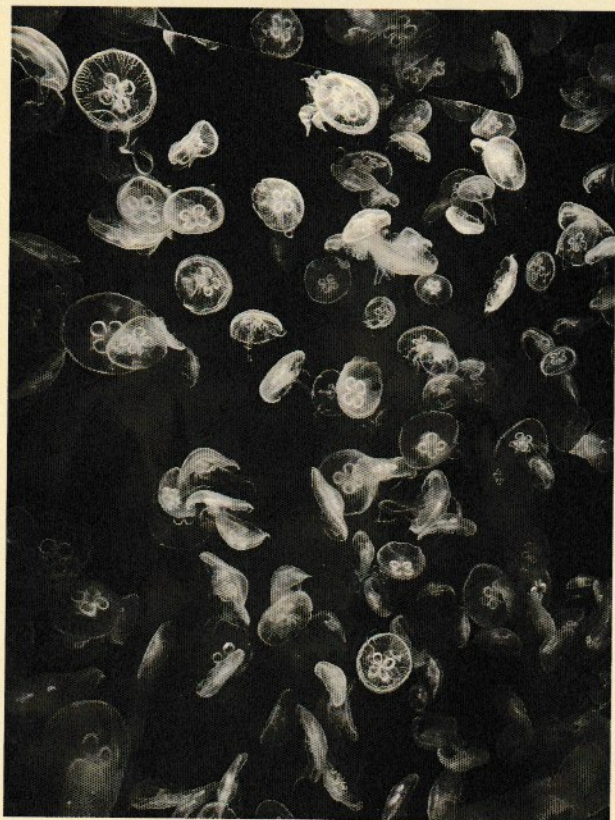


2024年6月1日に新規オープンした神戸須磨シーワールド見学に行きました。朝9時30分にJR須磨海浜公園駅の改札口に集合し、午前中に水族館、イルカのショー、オルカのショー、また水族館に戻って残りのすべての展示を精力的に見学しました。

アクアライブという水族館の展示は新しいだけあって、とてもきれいで間近にお魚たちを見ることができました。クラゲの展示は幻想的でしたし、トロピカルライブという熱帯魚の展示では本当に色鮮やかな熱帯魚が美しかったです。オルカは西日本唯一の展示で、プール奥に広がる須磨の海を背景にダイナミックなショーを見ることが出来ました。音楽に乗って首を振りながら泳ぐオルカがとても可愛かったです。我こそはという人はレインコートを持参して間近でショーを見る事でオルカに水をかけてもらってびしょびしょになる事ができます。スタジアムは満員でしたので立ち見で見学しました。私達は行きませんでした、「ブルーオーシャンオルカスタジアム」というbuffeレストランでは、アクリル越しにシャチを眺めながら食事が楽しめます。次回はこちらに行くのも良いと思いました。

午後は水族館の隣のせとうちハーバーレストランでbuffeスタイルの昼食を頂きました。ひろびろとしたレストランで気持ちよくお食事する事ができました。午後からは一部会員が残ってオルカのショーを再度見学しました。

体調不良のためお休みされた会員もいたことが残念でありましたが、のんびりゆっくりと水族館を見て回り、和気あいあいとしたとても楽しい会でした。



2025年合同新年会

久岡 眞佐代



2025年1月16日(木)、大阪の老舗料亭「花外楼・北浜本店」で大阪Ⅰゾンタクラブと大阪Ⅱゾンタクラブの合同新年会を開催しました。

厳しい寒さと豪雪が続く中、遠く金沢からゲストとして26地区エリア3エリアディレクター佐佐木アユ美様においでいただき、以下のお話をいただきました。

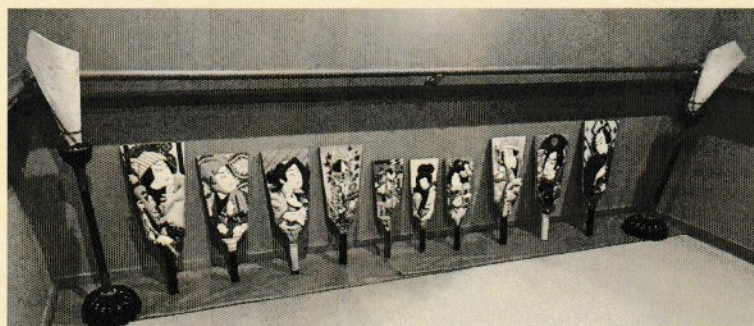
今期の国際ゾンタの目標、26地区のスローガン、第3回アジア地区間会議、会員増強問題などについてお話があり、「国際本部と26地区から届く多数の情報を毎日1つひとつ理解するとゾンタの活動は素晴らしく、常に誇りを持って生き生き活動することがアドボカシーである」というお話も伺って改めて佐佐木様のリーダーとしての気概と優しいお人柄に触れることができました。

今後続くであろう厳しい社会情勢の中、ボランティア活動に参加できる時間的・経済的余裕のある方を見つけるのは容易ではなく、会員のうち70歳以上が半数を超える当クラブにおいても会員の高齢化と会員増強は重要な課題です。私自身も数年前から幾つもの薬を服用する生活になりましたが、今後も動ける範囲でゾンタ活動に参加していきたいと思います。

合同新年会の後半は、会席料理を美味しくいただきながら、思い出話や近況を語り合っって会員間の交流を深め、温かく楽しい時間を過ごしました。



佐佐木AD



彰化愛楽日本大阪台日交流音楽会に参加して

笠置 伸子



私たち大阪Ⅱゾンタクラブの姉妹クラブである、台中Ⅲゾンタが協賛した音楽会が、8月23日にクレオ大阪中央ホールで行われた。

台湾からは31地区ガバナー、台中Ⅲゾンタクラブ会長、他数名のゾンシャンが来日し、私たち大阪Ⅱゾンタクラブからも4名の会員が参加致しました。

彰化愛楽室内楽団員は総勢60名程で、様々な年齢の人たちで構成されていました。最初は台湾の曲目で李先生が作曲、編曲された3曲が演奏されました。その後の近畿大学吹奏楽部は、学生による構成で、指揮者の方がアドリブをしたりして、笑いが出る場面もある演奏もあり、聴き覚えのある曲を3曲続けて聴きました。最後は台日合わせて9曲、演奏を聞かせて頂きました。残念ながら私はその中で「夜来香」しか知りませんでしたが、全ての曲が迫力のある演奏で、思わぬ楽しい時間を過ごしました。やはり生演奏は感動致しました。

台湾からも沢山の人が応援に同行し、在日台湾の方たちの7団体が後援しておりましたので、会場は満席状態で、凄い熱気でした。

台中Ⅲゾンタクラブのメンバーとも5ヶ月ぶりの再会で、お互いにとても良い友好と笑顔を交わすことができたと思います。ステキなお土産を頂きました。姉妹クラブがあるのは嬉しい!! 坂本さん(台中Ⅲとの連絡担当)ありがとうございました。



31地区ガバナー(右から2人め)とともに

三光塾にクリスマスプレゼント

辻 康子



2024年12月17日、大阪Ⅱゾンタクラブが2023年より奉仕している児童養護施設三光塾（西宮と宝塚）の子供たちにクリスマスプレゼントを届けました。

プレゼントはシャープペンシル（Dr.Grip）とチョコレート。シャープペンシルの色が外からわかるように透明の袋に詰め小さなカードを添えました。

西宮の方の子供達は中高生が中心で、ほぼ親からの虐待などを受け三光塾にやってくる子供が多いようです。自分が受けた虐待と同じように虐待を繰り返しがちだそうで「君のせいじゃない。あなたが悪いのではない。」と、35人の子供に対して非常勤を含め30人ほどのスタッフがチームで指導に当たっているとのことでした。親から虐待を受けて育った子供の心の傷は深く、スタッフに心を開くようになるまで時間と努力を要し、簡単に癒えるものでないことは想像に難くありません。職員一人で抱え込まないように外部の心理士のサポートも受けているそうです。三光塾の行き届いた指導のおかげなのでしょう、他の施設から難しい子供の受け入れを頼まれることも多く、また交通が便利という場所がら中学卒業後の進路が高校、専門学校や就職などの選択肢が多いことも子供たちの三光塾希望が多いことにつながります。

私たちクラブからの支援は決して多くありませんが、できるだけ応援したい！子供たちにその気持ちが伝わればいいと思いながらプレゼント詰めをしました。喜んで使ってもらえたら嬉しいです。



左から瀧野施設長、社会員、側垣理事長



プレゼント

編集後記

広報紙59号の発行に向けて、久しぶりに編集を担当させていただきました。年2回の発行ですが、クラブ設立以来発行は続いており、私たちのさまざまな活動の多くが、集約されています。今号も、貴重な原稿・写真をお寄せくださり、感謝申し上げます。

西村 博子